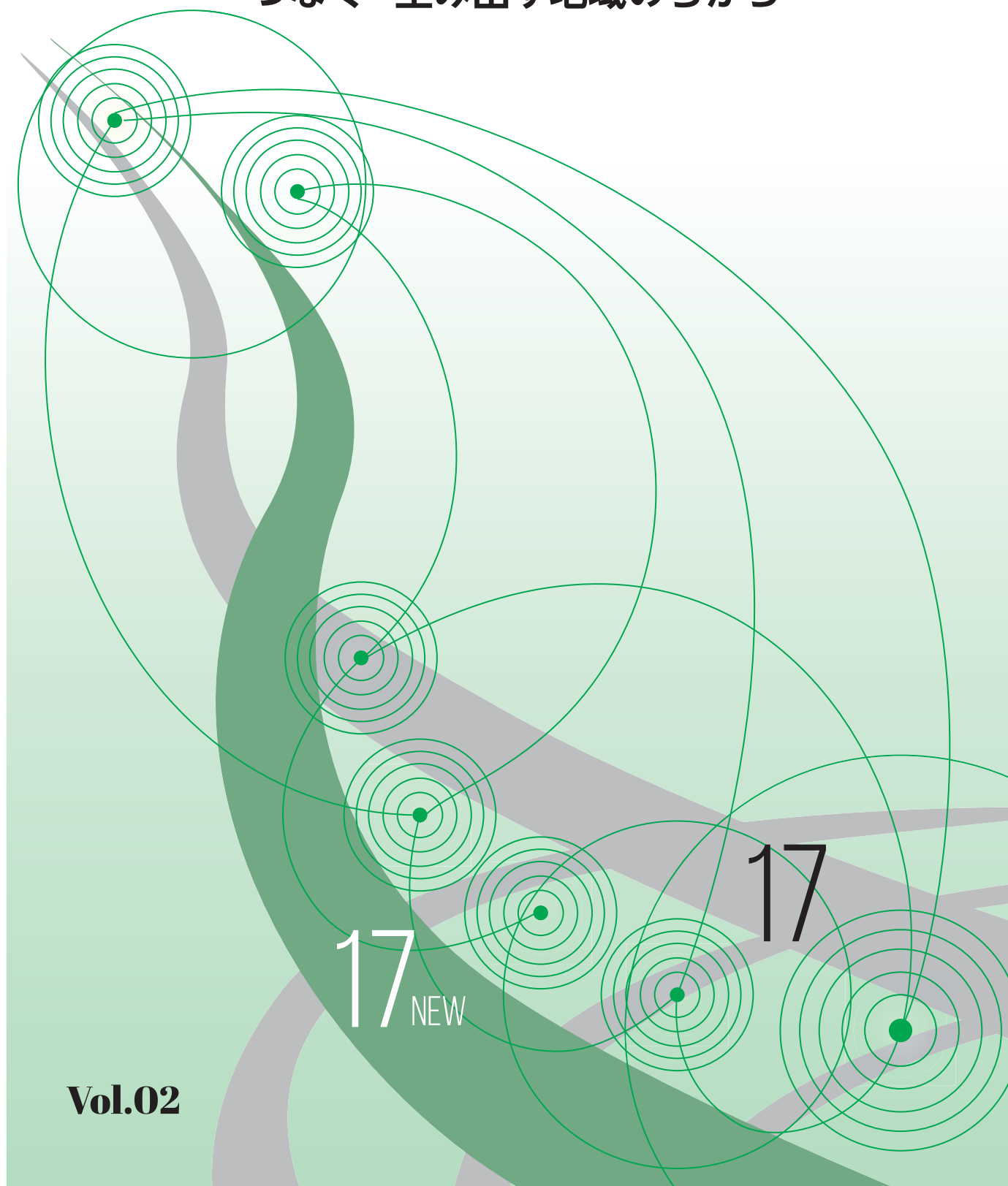


# 新中山道

～つなぐ・生み出す地域のちから～



Vol.02

17 NEW

17

# 暮らしやすさ、働きやすさの要は道路

市の発展に長年尽力してきた  
原口和久市長。

文化、暮らし、産業、環境を  
よりよくする行政の役割の要と  
なるのは広域連携。  
そのベースは  
道路ネットワークだと語ります。



鴻巣市長  
原口 和久氏

歴史ある街・鴻巣、  
そのはじまりは伝説

埼玉県のほぼ中央部にあって、県央地域と呼ばれています。とても歴史のある街で、7世紀の律令制で『武蔵国』となる以前は『无邪志国（むさしのくに）』と呼ばれ、その国府が現在の鴻巣市の笠原付近に置かれ、「国府の州」が転じて「こうのす」と呼ばれるようになったといわれています。

由来については他にもあります。鴻巣市は「このとり伝説」が残る街です。その昔、この土地に大樹があり、その樹神が土地の人に多くの災いをもたらしていました。ある時コウノトリがその大樹に巣をつくって卵を産み付け、卵を狙った大蛇が現われたのですが、コウノトリが怒って退治したそうです。以来、災いはなくなり、土地の人は感謝をして祠を祀り、それを鴻の宮と呼び、現在、鴻巣駅近くにある鴻神社になったそうです。地名もその伝説から鴻巣になったともいわれています。

人形や花の生産でも有名、  
日本一がいろいろあります

江戸時代、徳川家康が五街道を整備。現在、市内を通る国道17号は、その五街道のひとつ、内陸まわりで江戸と京都を結んだ中山道です。当時、鴻巣にも宿場ができ、やがて京から江戸へとやってきた人形師が定住。江戸時代中期より「鴻巣雛」として知られるようになり、「関東三大雛市」のひとつに数えられるようになりました。現在は県の伝統的手工芸品に指定され、毎年2月中旬から3月上旬に開催される『鴻巣びつくりひな祭り』では、高さ7mの日本一高いピラミッドひな壇を設置しています。

花の生産も全国的に知られています。市内にある地方卸売市場『鴻巣フラワーセンター』は、東日本最大級の花き市場です。毎年5月に開催している『こうのす花まつり』では、12.5haの本一の栽培面積を誇るポピー畑を中心に賑わい、昨年は24.6万人もの来場者があり、鴻巣市の魅力を市内外に広く発信することができました。

## 上尾道路は渋滞解消、 広域交流拠点の重要な鍵です

鴻巣市は都心から約50km。都心に直結するJR高崎線、国道17号も通り、交通の利便性に長けていながら、自然も多く残り、住環境のよさが自慢です。転出人口より転入人口が上回り、特に子育て世代と呼ばれる30〜40代の転入者は増加しています。

そうした鴻巣市にとって国道17号は、産業の活性化、暮らしやすさという点で、大きく貢献してきました。しかし現在では慢性的な渋滞が生じていて、物流、市民生活において、その解消が課題になっています。

上尾道路(Ⅱ期)の整備は、渋滞解消はもちろん、都心部、そして圏央道を繋ぐ道路として、鴻巣市の新たな活力となることは間違いありません。

現在、国道17号熊谷バイパス沿線に『道の駅』建設の計画を進めています。これは「第6次鴻巣市総合振興計画」とも連動しています。その総合振興計画は、鴻巣市で暮らすすべての「人」が文化に親しみ、安全・安心、そして快適な暮らしを守るまちづくり、「花」を生かした個性的で魅力的なまちづくり、河川や田園など豊かな

で美しい「緑」を守り育てるまちづくりを基本理念とし、鴻巣市の将来都市像を「花かおり 緑あふれ 人輝くまち こうのす」として掲げたものです。『道の駅』は市内観光の広域交流拠点、花をはじめとする地元農産物や市内事業者による特産品の販売拠点として重要な役割を果たすでしょう。

さらに国道17号熊谷バイパス沿線の箕田<sup>みだ</sup>地区には、県の企業局と事業化を進めている産業団地の計画もあります。市としては、工場を誘致し多くの新たな雇用創出に繋げることで、人口減少改善の起爆剤になると考えています。

これらの計画に加えて、都心部、圏央道、さらに高速道路網を利用して全国とよりアクセスしやすくなる上尾道路(Ⅱ期)の整備は、さらなるチャンスを生み出すと思っています。例えば、鴻巣の主要産業である花きビジネスは、全国の花生産地とより繋がりやすくなるので『ハブ』的役割を担えるようになり、さらに発展するでしょう。その影響の大きさは、計り知れません。

## 環境と産業のどちらも 高いポテンシャルを目指して

国土交通省の河川部局とは、『コウノトリの

里づくり』事業を連携して取り組んでいます。また環境省や文化庁とも連携し、来年度には繁殖と放鳥も視野に入れたコウノトリの飼育施設の建設がはじまります。冒頭でお話した通り、鴻巣市はこのとり伝説の街。本市のシンボルともいえるコウノトリが飛び交う豊かな自然環境を目指すことは、そのまま暮らしやすい街にも繋がると思います。

このコウノトリ事業は周辺自治体とも連携して行なっています。その経験を踏まえると、これからの行政は、広域で取り組むことが必須です。そのためにも国道17号等を軸にした道路ネットワークを活かし各市町村と連携して、産業と環境のどちらもポテンシャルの高い鴻巣市を目指していきます。



鴻巣市の空をばたたくコウノトリ(イメージ図)

# 道路アクセス改善がもたらす地域活力

地方都市が抱える課題解決に  
広域、異業種、世代間の  
交流で取り組んでいるという。  
商工会・会長の小林忠司氏は、  
さらなる交流、  
地域活性化のため  
もっとアクセスのよい鴻巣市を、  
期待しているといえます。



鴻巣市商工会 会長  
小林 忠司氏

## 商工業の活路を広域連携で模索

2005年の鴻巣市、吹上町、川里町の市町村合併に伴い、2010年に同市町の商工会も合併しました。現在の会員数は1700件。商工業者の方々からの金融、税務、経営等の相談に応じ、経営の近代化、合理化のための研修会や技術修得のための講習会、検定試験の実施、地域社会や企業経営のための生きた情報等を的確、迅速に提供しています。

また異業種間のネットワークをフル活用して、ビジネスチャンスの創出や個人の資質向上を図ってまいります。しかし二代目となる若い人たちは勤め人になることも多く、経営者の高齢化、そして後継者不足は深刻です。さらにはお店を畳んでしまった後の空き店舗対策も課題で、いわゆるシャッター商店街が目立ちます。

そうした中で期待しているのが、市が埼玉県企業局と進めている『産業団地』の計画です。予定地は、現在活用が進んでいない北鴻巣駅東側の地区です。至近には『道の駅』の建設計画

もあります。『産業団地』での雇用増、そこで働く方の転入増、『道の駅』を利用する方等々、国道17号をアクセス路として、新たな人の交流が生まれ、飲食店が増えれば、よくなっていくのかなと考えています。

また鴻巣駅前も再開発によって様変わりしてきています。跡継ぎのいない商店と学生や若い人を組み合わせた再生事業の動きもあります。新たな人の動きにも期待しております。

## お祭りやイベントを通じ コミュニティを広げる

交流といえば、歴史のある街でもあり、さらに3市町が合併したこともあって、この地域はお祭りやイベントが盛んです。特に約400年近い歴史のある鴻巣市のひな人形作りのPRとして開催されている『鴻巣びつくりひな祭り』は全国的にも有名です。駅前の『エルミこうのす』の1階セントラルコートに展示される日本一高いピラミッドひな壇は圧巻です。

また鴻巣市商工会青年部が主催、10月に開催される『こうのす花火大会』も約60万人もの人



『鴻巣びっくりひな祭り』で、長い伝統を誇る鴻巣のひな人形をPR。  
(提供：鴻巣市役所)



鴻巣市商工会青年部の50余名が手掛ける『このす花火大会』は、新たな街づくりの象徴。  
(提供：鴻巣市役所)

## 交流のベースとなる道路 早い実現に期待高まる

出を誇る、鴻巣市の一大イベントです。約4分間に尺玉300発・三尺玉2発の計302発の尺玉以上の花火が、1分間平均で約75:5発打ち上がり日本一に認定されております。

現状、鴻巣市のお祭りやイベントを訪れる

人々は、J・R高崎線か国道17号の利用になります。東北道、関越道、圏央道と高速道路に囲まれてはいますが、いずれもアクセスが悪い。でも上尾道路(Ⅱ期)や新大宮上尾道路が整備されれば、まず圏央道、首都高速を通じて東京、神奈川、千葉、茨城、さらにはその他周辺地域、全国とも繋がることができます。それによって一人でも多くの方が、日本一の様々なお祭り、イベントを契機に鴻巣市を訪れていただけ

ば、街も活気づくと思います。鴻巣市は都心から50km圏内で通勤通学圏内といわれていますが、上尾道路(Ⅱ期)で都心と繋がることで、まさに『首都圏』になるのではないのでしょうか。実現が楽しみです。

# 産地と市場を結ぶ道路ネットワークが発展を促す

**産地と市場**を結ぶ道路ネットワークが発展を促す

鴻巣市寺谷にある花き市場「鴻巣フラワーセンター」  
その市場長と、卸売会社の「鴻巣花き(株)」の責任者に  
鴻巣の花き産業の歴史とこれからの伺いました。



鴻巣フラワーセンター(株)  
取締役 市場長  
武藤 幸二氏



鴻巣花き(株)  
取締役 兼 調整役  
飯塚 多喜男氏



鴻巣花き(株)  
総務部 部長  
山田 秀登氏

## 鴻巣の花き産業は 戦後からはじまった

武藤…鴻巣地域の農家は元々、小麦を中心に野菜などを生産していました。ところが、戦後間もなく、花き生産の先駆者となる寺谷地区の農家が東京で販売するために、これまで作っていた野菜苗に加えパンジーを生産し

たことから始まったそうです。戦後の時期にもかわらずよく売れたことから、花の生産農家も寺谷地区を中心に増え、その区域は更に広がり鴻巣は花の産地として国内でも有数の産地となりました。そして昭和42年に先ほどの鴻巣での花き生産の先駆者が中心となり市内で初めて花き市場が開設されると、昭和48年には、やはり地元の生産農家を中心となり二つ目の花き

卸売市場ができました。

以降、高度経済成長、ガーデニングブームが続き、需要も年々拡大。春先や年末の繁忙期には狭い市場では運用が厳しくなってきたことから、二つの市場を統合して広い市場を開設することを行政に要望。平成14年にできたのが、この『地方卸売市場 鴻巣フラワーセンター』になります。特に鉢物は全国で3番目の取扱高で東日本でも有数の花き市場です。

山田…『鴻巣花き(株)』は生産農家から花の販売を委託され、それを買参人である小売業者などに花を販売することが業務です。市場までの花の集荷や、販売した花を送る業務は市場の関連業者として『株 鴻巣植物運輸』が行っています。



鉢物の取扱高は全国で第3位。

## 市場の販路拡大は 道路整備の影響が大きい

**山田**.. 現在では配送は別会社を担当していますが、鴻巣で花の生産を始めたころの販売方法は、自ら都内へと自動三輪車で売りに出ていたそうです。その際に通る国道17号には浦和付近に信号がひとつあるだけ。交通量も少なかったことから、1日に3往復もできなかったそうです。

**飯塚**.. 鴻巣の花き産業が発展したのは、地理的条件も大きいと言われています。東京という巨大な消費地がすぐ隣にあったこと、そし

て、高度経済成長とともに、国道17号をはじめとする幹線道路が整備され、関越道、東北道、近年では圏央道といった高速道路が開通。それらの道路を通って北は北海道、南は沖縄まで全国各地の花が『鴻巣フラワーセンター』に届き再び各地に運ばれて行きます。

**武藤**.. 集荷、配送にあたって最も留意していることは、花の鮮度です。運送担当の『株鴻巣植物運輸』ではトラックを30台保有していますが、うち25台は空調車で温度管理がしっかりとできる車です。また集荷と配送を上手にスケジューリングして、できるだけトラックを空で動かさないよう、効率を第一にしていると聞いています。

**山田**.. ところで現在は、都内に出やすい国道16号以南から花を買いに来る小売業者の割合はそれほど多くありません。でも新大宮上尾道路ができれば、所沢や川口、そして都内からのアクセスが格段に良くなるので、それらの地域の取引先が増える可能性は十分にあります。実際に圏央道の開通によって、それまで取り扱いが少なかった八王子、青梅方面の取引先が増えたことがありました。また今年、

改正卸売市場法が施行され、流通の効率化、例えば産地直送や市場間ネットワークへの取り組みが一層進むものと思われます。花きが集まりにくくなっている地方の市場や小売業者に鴻巣のような大きな市場が中継地点、いわばハブになって集荷、配送するようになるかもしれません。その進展のためにも、やはり道路整備は重要なものとなっています。鴻巣の良さを活かせる道路を期待しています。



自動セリシステムを導入し、セリ時間の短縮や情報の電子化により業務効率の向上が図られている。

# 経営、コストと雇用のカギを握る「道路」

より魅力的で競争力の高いお菓子を作るために1銭単位でコスト管理を行っているメーカー・関東グリコ(株)にとって、便利で速く時間予測が容易な道路ネットワークの存在は今や必要不可欠な存在となっています。



発売から半世紀以上愛されているポッキー。

## 物流コストの削減と業務効率化

関東グリコ(株)は国内に15社17拠点あるグリコグループの生産施設の中で、お菓子の2大主力製品「ポッキー」と「プリッツ」に特化した大量生産を行っています。埼玉県を南北に貫く国道17号に隣接しながら首都圏を環状に繋ぐ圏央道のほぼ中央に位置しており、最寄りのインターから5分という好立地に恵まれています。本格操業の開始は2012年。現在の需要は増加傾向にあり、近年は工場をほとんど365日稼働させています。

私たちの製品は原材料の鮮度がとても大切です。そしてまた焼きたてが一番美味しいので無駄な在庫も作りません。そのため継続的かつ頻度の高い輸配送が必要となります。また、歴史ある商品であればあるほど価格は簡単に変えられません。したがって原材料の価

格が上昇する中、製造コストを減らさねばならないのですが、輸送費は道路事情に大きく依存しているのです。

工場をここに建設したのも効率化が目的でした。北海道と福井県、東京都にあった3つの工場を閉鎖して統合。老朽化した設備への再投資を見送り、大規模消費地に近い場所に生産拠点を集約することで物流コストを大幅に減らすことを目的としました。3か所くらいの候補地があったと言われていますが、埼玉県の企業誘致の熱意を感じ、北本市長からも「ぜひとも」というお声がけをいただき、この地に根を下ろした経緯があります。

## 調達と出荷の両方を効率化

最初に効率化が進んだのは商品の出荷業務でした。首都圏へは主に戸田の物流センターを介して納品が行われますが、距離が劇的に



関東グリコ株式会社  
代表取締役社長  
中田 司氏



近くなったのです。また、従来はトラックに商品を1箱ずつ積み下ろす作業をしていましたが、一度にまとまった量を生産しシートパレットで効率よく運べるようになったので距離と時間の両面で短縮化が進みました。

そして現在はグループ全体としてさらに進んだ効率化を進めています。昨年10月には川西倉庫㈱と提携し、加須市に「関東VMIセンター」を設立。従来までは数十社に及ぶ原材料メーカーが関東の5工場へバラバラに納品していたのですが、これをひとつのセンターに集約しサプライヤーと共同で在庫を一括管理できるようにしました。また常温保管の原材料だけの取り組みですが、これによってサプライヤーの納入回数が激減しただけでなく5工場への配送も1台のトラックで済むようになり走行距離も圧縮。荷下ろし渋滞も緩和され、深刻化するドライバー不足やCO2の削減といった社会問題に対しても一定の成果をあげることができました。奇しくも川西倉庫の加須営業所の稼働も我々と同じ2012年。圏央道が拓いた関東の物流革命は我々メーカーやユーザーに大きな恩恵をもたらしているのです。

## 道路が雇用機会を創出する

今後、国道17号上尾道路(Ⅱ期)や新大宮上尾道路が整備されて行く過程で我々が本當に期待しているのは優秀な人材の獲得です。現在は正社員以外の方を含め約700人が働いており、北本を中心に近隣の桶川や鴻巣などから主に車通勤で通っています。雇用は慢性



社屋には、工場見学用の施設「グリコピア・イースト」が併設され、2018年12月に来場者は50万人を突破。

的に不足気味です。国道17号線の渋滞などが緩和されれば、大宮などやや遠方の都市からの通勤者も増える可能性があります。当社はグループの中でも新しい工場ですのでAIによる生産の自動化や効率的な物流ロジスティクスへの取り組みなど今後も様々に期待されており、幅広い地域から優秀な人材をしっかりと確保したいと考えているのです。

江崎グリコの創業者・江崎利一が「食べる」と遊ぶことは子どもの「二大天職」という考えのもと栄養菓子「グリコ」におもちゃを封入したのは有名な話ですが、我々も天職として胸を張り、ひとりでも多くのお客さまに食べる楽しみをお届けできるよう、地域に密着しながら走り続けて行きたいと考えています。



自動化された工場。

# 庶民的なアイスをお届ける課題は物流コスト

**赤城乳業(株)**は、アイスクリーム専業メーカーでありながら業界6位の売上を誇る「強小カンパニー」です。国内約10%のアイスを生産する埼玉・本庄、深谷工場から全国へ、今日もアイスを届けています。



赤城乳業株式会社  
取締役 総務部 部長  
本田文彦氏

## 赤城乳業の沿革と事業内容を 教えてください

1931年、「ヒロセヤ」として創業し、天然氷を販売。1961年に『赤城乳業』となりました。弊社は現在も本社を置く埼玉県深谷市の会社です。赤城山は群馬県の山ですが、深谷から見えます。その姿は裾野が広く、当時の社長は、自社のアイスが広く多くの人に届くことを願ったそうです。また当時から今もアイスクリーム専門の会社で牛乳は扱っておりませんが、アイスをつくるメーカーは、総じて大手牛乳メーカーさんで、〇〇乳業という社名でした。そこで大手牛乳メーカーさんにも負けないアイスをつくるぞ！と「乳業」と名付けたといいます。

とはいえ、単に大きな会社を目指してきたわけではありません。規模は小さくても強い

会社、いわば「強小カンパニー」を目指してきました。そのために大切にしているのが「遊び心」です。名刺の社名の上にもコンセプトの「あそびましょ。」を入れています。

「遊び心」を象徴する商品が、1981年に発売した「ガリガリ君」です。この「ガリガリ君」は1964年に開発し大ヒットした「赤城しぐれ」というカップアイスを、「子供が遊びながら片手で食べられるかき氷」を目指してつくったものです。発売当初は年間4000万本、それが2000年に1億本、現在は4億本を販売しています。

## 人気の「ガリガリ君」が 売上額の大半を占めるのでしょうか？

そのように想像する方が多いのですが、「ガリガリ君」の売上額は全体の2〜3割程です。フレーバーの違いで「ガリガリ君」は全部で

約20種類ありますが、発売している年間のアイスは全170種類程。「ガリガリ君」以外にも、「ガツン、と」シリーズや「MILCREA」等も弊社の人気のアイスです。

**「本庄千本さくら工場」の見学も人気と伺いました。  
その狙いはどんなことでしょうか？」**

おかげさまで、夏休みや春休みの見学は定員一日100名に100倍の申込みがあります。工場見学がブームということもあり、遊園地感



型抜き工程

覚で来場される方が多くいらっしゃるのだと思います。その過程で、薬工場と同レベルの衛生管理でアイスがつけられていることを知って安心してもらい、「あそびましょ。」のコンセプトを楽しみ、アイス食べ放題を喜んでもらえればと思っています。そして親御さんに連れられてきたお子さんの記憶のどこかに赤城乳業が残り、就職を考えた時に、楽しい会社だったなあと思いついてくれるようなことがあれば、さらにうれしいことです。

**全国へと商品を配送する方法、  
また課題を教えてください**

本庄、深谷の2つの工場で85%、残りは各地の協力工場で生産しています。また本庄、深谷工場で生産されるアイスの量は、国内で生産されるアイスの約10%を占めています。

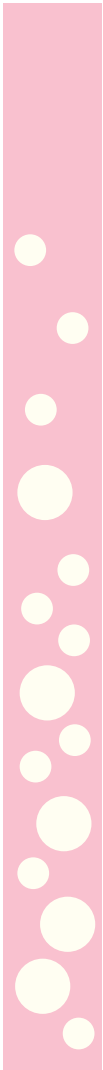
配送については運送業者さんに委託し、全国50箇所以上の配送センターへと送っています。近隣ですと主な配送センターは岩槻や所沢で、そこから各店舗へと送られています。そのため工場から配送センターまでは国道17号や圏央道を利用しますし、配送センターから各店舗までは様々な道路を利用しています。

4年前にタイに子会社を設立して気が付いたのですが、日本のように道路がきちんと整備され、渋滞も少ないと、トラブルが少なくて済みます。特に冷凍車での配送は、道路がメンテナンスされていないと冷凍機器が故障したり、ひどい渋滞が多いと温度管理も大変です。

そうした点で、今回事業化された新大宮上尾道路は、渋滞解消を目指すとのこと。まだまだ先の開通予定なのですが、将来的に物流がより良い方向に進むと期待します。

商品単価が低い弊社は、物流コストの割合が必然的に大きくなります。そのため20年前にはパレットを上下2段に積み込めるコンテナを製作、昨年からコンテナを連結して一度に運べる量を多くする工夫をしています。わずか2%改善されるだけでも、約10億円と大きな額になり、小さな積み重ねが大切です。

今後は物流自体も大きく変わると想像します。その基盤となる道路がより利用しやすいものになれば、物流のコストを抑えられ、収益、経営全体に良い影響があると期待しています。



## 地域と共に創る道路

# 新大宮上尾道路・上尾道路（新中山道）

——地域の発展を目指して——

安全・安心な道路整備を目指して



大宮国道事務所長  
たなか ともひで  
田中 倫英

平成31年4月1日より事務所長に就任しました。地域のみなさまの声をできる限り多く把握し、実際に繋げて行きたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

埼玉県は歴史的に日光街道や中山道など江戸を起点とする放射状の街道が発達し、浦和、熊谷などの主要都市もこの街道筋の宿場として発展してきました。

このような背景から、現在の道路網も関越道、東北道の高規格幹線道路および、国道4号、17号などの南北に延びる主要な幹線道路並びに、東西軸のネットワークを形成する東京外かく環状道路や国道16号、国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が県内道路網の骨格となっています。

大宮国道事務所では、そのうち、国道4号、16号、

完成前（撮影：令和元年7月9日7時台）



完成後（撮影：令和元年11月19日7時台）



国道17号熊谷バイパス「熊谷市上之地区」交通安全対策工事による付加車線設置状況（令和元年8月29日完成）

17号の整備、管理を担当しています。

県内の人口は都心に近い県南地域への集中傾向が続いており、自動車保有台数は増加傾向にあり全国でも高くなっています。

また、道路の状況では埼玉県の混雑度は、東京都に次いで全国で2番目に高く、大型車の混入率は高速道路を含む全道路・一般道ともに、全国で最も高い状況となっています。

これらのことから、当事務所では、安全で安心して通行できる国道の整備、維持管理に努めています。

### 地域の皆様とのコミュニケーションを大切に

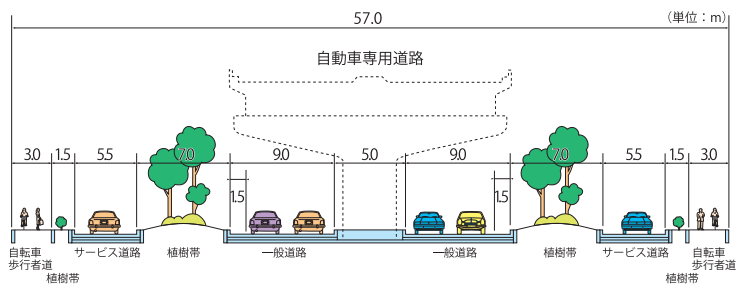
平成31年3月に、国道17号新大宮上尾道路、上尾道路に関する話題等を地域の皆様にお伝えするひとつの手段として、広報誌「新中山道」を創刊させていただきました。

今回も引き続き、第2号を発刊し、沿線自治体や商工会、企業等から頂いた貴重なインタビュー内容を掲載させていただきました。

今後も、事業の進捗などをお知らせさせて頂きながら地域の皆様とのコミュニケーション、関係を図り、一緒に地域の活性化を考えながら事業を進めていきたいと考えております。また、地域の方々の道路事業に関心を持って頂く一助になれば幸いです。

# Mes

# 国道17号の渋滞を緩和し、豊かな暮らしをサポート



上尾道路は、国道17号の交通渋滞を解消し、沿道環境の改善を図ること等を目的に計画され、一般道路と自動車専用道路から構成されています。

さいたま市西区宮前地先の新大宮バイパスを起点に、国道17号と並行してさいたま市域及び上尾市域を北上し、桶川市川田谷で首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と接続し、さらに北本市域を北上して、終点の鴻巣市箕田で国道17号と合流する延長20.1kmのバイパスです。

そのうち、起点の新大宮バイパスから首都圏中央連絡自動車道（圏央道）桶川北本インターチェンジまでの延長11.0kmをI期区間とし、平成28年4月までに4車線（二部暫定2車線）開通しました。

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）桶川北本インターチェンジから国道17号までの延長9.1kmをII期区間とし、現在、調査設計及び用地買収を実施し、JR高崎線交差部付近では令和2年度より、改良工事に向けた工事用道路工事に着手します。



鴻巣市箕田地区から国道 17 号熊谷バイパス方面を望む。平成 31 年 3 月 8 日撮影



上尾道路 II 期と JR 高崎線交差部付近のイメージ図

# 圏央道沿線から都心へのアクセス性が向上し、

# 地域の産業活動を支援



【標準断面図】



新大宮上尾道路は、国道17号の慢性的な交通渋滞緩和や埼玉県中央地域の健全な発展などを目的とする、さいたま市中央区から鴻巣市に至る延長約25.1kmの高架構造の自動車専用道路です。

平成28年度に、さいたま市中央区円阿弥<sup>えんあみ</sup>から上尾市堤崎<sup>つつまき</sup>(与野から上尾南間)の延長約8.0kmが事業化されました。

平成29年度から、国土交通省関東地方整備局と首都高速道路株式会社が共同で、事業を進めており、令和2年3月13日に都市計画事業承認及び認可の告示がされました。

本路線は全線に渡って高架構造となり、周辺地域の景観に与える影響が大きいことから、景観にも十分に配慮した整備を行うこととし、学識経験者や関係自治体、事業者により高架橋の景観を検討するため、令和元年6月に国道17号新大宮上尾道路(与野〜上尾南)景観検討会議<sup>けいがんけんたうかい</sup>を立ち上げました。

景観検討会議は、令和元年6月、11月並びに令和2年1月の計3回開催し、高架橋の色彩案等の決定を行いました。

現在は、道路設計や橋梁設計を推進しています。





イメージであり変更となる場合があります

景観検討会議で決定した高架橋の色彩案のイメージ



イメージであり変更となる場合があります

国道 17 号新大宮バイパス交差部（さいたま市西区宮前）付近の新大宮上尾道路の高架橋イメージ

つながり、結ぶ

# TOPIX

## 上尾市

### 新中山道でますます住みやすく、働きやすいまちへ

上尾市は、埼玉県の南東部、都心から35kmの距離に位置する人口約22万8千人（令和2年3月現在）のまちです。本市のこれまでの歴史を振り返ると、江戸時代には中山道で5番目の宿場町として発展しました。また、明治期になると中山道に沿うような形で鉄道が敷設され、営業開始当初に設置された上尾駅を中心にその後のまちづくりが進められるなど、本市の発展は中山道を抜きにして語ることは出来ません。

一方、本市の中心部を縦断する中山道（国道17号）は、急速にモータリゼーションが進化した近年では、交通渋滞が度々発生し市民の生活や経済活動に影響が生じていました。これを改善したのが圏央道の桶川北本インターチェンジまで直結した上尾道路の開通（平成28年）です。上尾道路の整備効果は国道17号の混雑緩和のみにとどまらず、本市西部地域から都心や県庁所在地であるさいたま市、また各高速道路を経由した全国各地へのアクセスを容易にし、ヒト・モノをはじめとする経済の新しい流れを生み出しました。沿道には新たな大型商業施設が立地したほか、現在では複数の物流施設の建築

も進められています。また、土地区画整理事業も行われており、良好な街並みを持つ宅地の供給が続いています。

そして、上尾道路が桶川市まで開通した平成28年、首都高速道路の延長である自動車専用道路の新大宮上尾道路の事業化（さいたま市中央区円阿弥〜上尾市堤崎間）が決定しました。これが整備されると本市で初めての自動車専用道路となることに加え、本市及び県央地域から都心方向への交通利便性が飛躍的に向上することが期待されるなど、まちづくりに与えるインパクトは大きなものがあります。本市としては、市のまちづくりの総合的指針である『総合計画』や、産業振興の方向性等を定めた『産業振興ビジョン』において上尾道路沿道を新たな産業立地の受け皿とすることを言及するなど、上尾道路と新大宮上尾道路の整備を市勢発展の好機として捉えています。ただし、上尾道路の周辺には農地や豊かな生態系を持つ雑木林なども存在することから、新たな土地利用を進める際はこれらとの調和を図ることが前提となります。今後も周辺環境に配慮しつつ、道路整備によるス

トック効果を最大化するべくまちづくりを進め、「暮らしの場」や「ビジネスの場」として選ばれるまちとなることを目指してまいります。

これまでは中山道の存在が発展の原動力の一つでした。これからは中山道をはじめとする既存資源とともに新中山道（上尾道路、新大宮上尾道路）を起点とした新たなまちづくりを推進していきます。沿線自治体として、新中山道の整備がより一層進展することを期待しています。

#### 上尾市壺丁目付近

上尾市壺丁目付近から圏央道桶川北本インターチェンジ方面の上尾道路 | 期間通区間  
平成31年3月8日撮影



つながり、結ぶ

# TOPIX

## 北本市

### 圏央道や上尾道路の整備効果を生かしたまちづくり

北本市は、県中央部に位置し、大宮台地上のほぼ平坦な地形となっており、武蔵野の雑木林など、魅力ある豊かな自然を残しています。市の中央部を国道17号やJR高崎線が縦断し、これに沿って市街地が形成されています。さらに、その外側には緑豊かな田園地帯が広がり、西側には荒川が流れています。

この荒川及び上尾道路(Ⅱ期区間)沿線には日本五大桜の一つで、国の天然記念物に指定され、また、源頼朝の伝説でも名高い樹齢800年位と推定される蒲ザクラや、広々とした芝生にソメイヨシノ、エドヒガンザクラの他、全国各地から集められたおおよそ30種・200本の桜がみられる高尾さくら公園及びバンガローやテントサイトを備えキャンプ等が楽しめる野外活動センター等があります。

平成27年10月には市南部を横断する圏央道が開通し、平成28年4月には上尾道路の1期区間が開通しました。北本市を縦断する国道17号は首都圏と上信越地方を結ぶ大動脈として私たちの暮らしに欠く事の出来ない極めて重要な幹線道路である一



方、交通渋滞は慢性化している状態です。

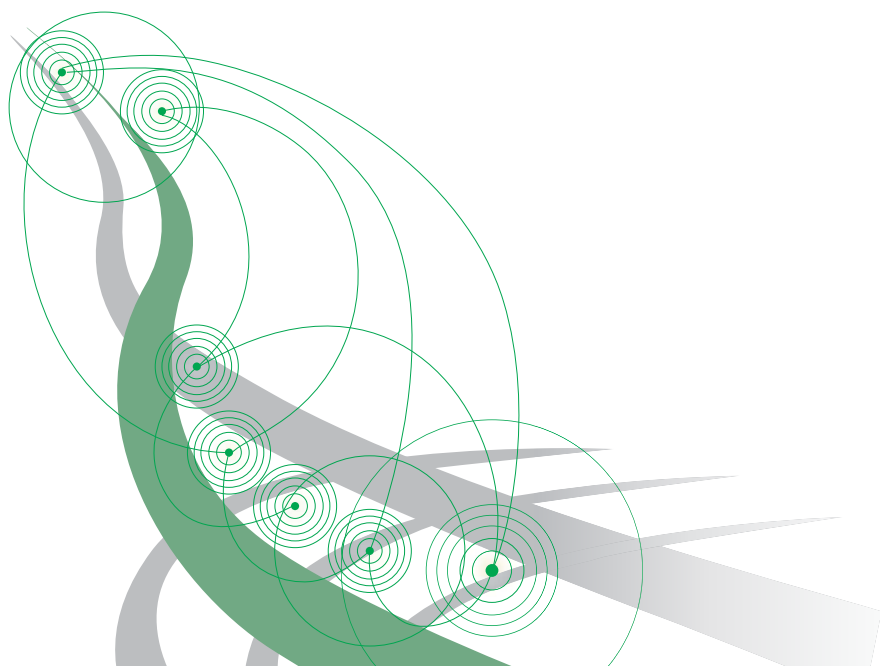
現在、国において、上尾道路Ⅱ期区間が事業化されており、慢性化した交通渋滞の解消をはじめとする沿道環境の向上はもとより当該道路沿線における地域活性化など、埼玉県央地域の南北軸として大いに期待される所です。

北本市においても上尾道路の整備インパクトに期待し、地域の持つポテンシャルを最大限に活用していくことを検討しています。



▲北本市下石戸・二ツ家・中丸付近  
北本市下石戸付近から久喜方面へJR高崎線を交差し、北本市内を通る圏央道の様子  
平成27年12月9日撮影

◀圏央道桶川北本インターチェンジ付近  
桶川北本インターチェンジ付近から北本市方面の上尾道路Ⅱ期計画ルート  
平成31年3月8日撮影



## “つながり”が生み出す地域のちから

—— 人、地域には元々持つ、備わっている力がある。それらがつながり面となって広がることでポテンシャルはさらに高まり、未来に向けて新たなちからとなる。

道がつながる、地域と地域がつながる、人がつながる、そしてそれ等が持つちからがつながり、新たな多様な価値を創出し豊かな地域、輝かしい未来を創造することが出来る。様々な分野の知恵、ノウハウ、技術、経験を連携、協働することで高いパフォーマンスが生み出される。

その可能性を示し発信する、「地域と道」が創る冊子 ——



国土交通省 関東地方整備局  
大宮国道事務所

〒331-9649 埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目435番

TEL.048-669-1205 (計画課)

<http://www.ktr.mlit.go.jp/oomiya/>